

【2006年6月 結成】

# 八幡東九条の会 ニュース

2010年 4月27日 21

発行：憲法九条を守る八幡東区の会  
〒805-0048 八幡東区大蔵 2-2-3  
電話：093-652-1550

## 戦争と医療、大砲とバターは両立しない

第三回学習会

『憲法二十五条と福祉・医療 現状と問題点』

三月二十七日、八幡東九条の会代表世話人のお医者さん・松井岩美さんを講師にして開催しました。季節はずれの寒さの中、会場のレインボープラザの会議室は参加者二十二名で一杯になりました。松井医院スタッフのご協力で三十枚を超えるスライドを使って（プロジェクターの調整でご迷惑をかけたが）、大変判りやすいお話を伺いました。

私たち患者の立場からは「健康保険料の値上がりによる家計圧迫」、新聞やテレビで伝えられる「国民皆保険の危機」など医療の崩壊が心配ですが、松井さんなどお医者さんにも多くの悩みがあることも良くわかりました。

「大砲とバターは両立しない」は常に真理で、戦争が医療を圧迫し、弱いものへのしわ寄せが行われました。平和を迎え、新憲法が

発布され新しい時代になったにも拘らず、日米安保体制がまたもや暗い影を落とし、最近の「グローバルズム、新自由主義や小泉流の構造改革」の結果が今日の医療制度の現実です。



憲法九条を守り、二十五条の「健康で文化的な生活を営む国民の権利を具体化し、国に社会福祉・社会保障・公衆衛生の向上に努めさせる」ことを実現させることの重要性を再確認しました。しかし、日々の生活の中で国民の一人ひとりが、具体的に何をすれば良いのか簡単な答えはありません。

基本に立ち戻って、「平和と健康を守るアクション」を考える契機となった良い学習会でした。



## 学習会アンケート

### 質問

お話はいかがでしたか

八幡東九条の会についてご意見や要望

具体的に非常に面白かったです。病める国民健康保険制度にはっとしました。(匿名)

医療の実態がよくわかりました。「医療福祉を守ることが平和を守る」もっと深めたい。(島崎義廣)

図表を示されての具体的な説明がとてもよくわかりました。身近に理解が進み、医療の貧困化の進行におどろきました。

ありがとうございます。

(三浦日佐代)

お話は分かりやすく感心の一言です。こんなに大変な世の中、もつと1人1人が考え考えることの大切さを感じました。

出来ることはいたします。声をかけてください。

(藤本千咲子)

松井先生の言われたとおり戦中、戦後は医療も崩壊するし、すべての生活がなくなりそうです。庶民にとつては絶対戦争はするものではありません。私は73

1部隊の記念館も行ってきました。九大人体解剖に参加させられた医学生(当時)の話も聞きました。憲法九条は死守しなければなりません。

今日の集会を見ても年配者が多くて若い人がいないのが本当に淋しいです。(岡添貞子)

医療制度の仕組みが十分理解できました。

医者診療報酬を上げて医療充実を図ってほしい。(藤村温實)



## 八幡東九条の会四周年の集い

『憲法の視点から考える

ホームレス問題』

奥田さんは八幡東九条の会の呼びかけ人で、世話人にも名を連ねられています。ですが、わたしたちはこれまで直接奥田さんのお話を聞く機会がありませんでした。

この機会に奥田さんのお話を聞いて、憲法9条や25条についてより深く考える機会にしたいと思えます。

八幡東九条の会では今年4周年

を迎えます。会では5月15日(土)午後二時から奥田さんの講演を柱とする四周年の集いを企画しました。

ここ数年、格差社会が広がる一方で社会生活から放り出された人たちを、それぞれの立場、方法で助け合う活動が広がっています。

長年にわたってホームレス支援をされている奥田知志さんの活動はNHKテレビ番組「人間交差点」・「無縁社会」などでも紹介されました。



つどいでは4周年の報告につづいて青い空合唱団九条の会有志、八幡東九条の会有志による合唱もあります。

会の皆様、ぜひ周りの方々もお誘い合わせのうえ一人でも多くのご参加をよろしくお願いたします。

・日時 5月15日午後2時

・会場 八幡東区中央二丁目  
レインボープラザ71会議室

・参加費(資料代) 300円



## 下川養浩先生の想い出

中尾 宮崎 彬

先生には、「九条の会」や「たかつき平和の会」創立以来お世話になり、なによりも明るさと行動力にみんな元気をもらっていた。九条の会の賛同者署名で、お寺さんや教え子の宅を二人でよく訪問したが、かつての生徒がみな七十歳以上でとても喜んで、ここからでもなすので「教師冥利」に尽きるなあと感心させられた。戦後、最初が槻田中学の理科の先生だったとか。

先生の戦争体験は、久留米師団司令部勤務だったのでめずらしい話だった。最初の学徒動員組で幹部候補生の受験した四十数名中二人だけ落ちて、師団司令部配属になった。「遺骨係」のことはニュース5号でご本人が書かれていますので省きます。

『映写宣伝部』に配置され映写機を担いで将校と二人で各農村を回った。

星野村に行く時、ガダルカナルも落ちて、将校が「もう庭に爆弾が落ちたようなものだ、しかしこんなことは誰にもいふなよ」といいながら相変わらず「勝った」「勝った」のニュースを上映して廻った。

○大本営発表とかけて、バナナの叩き売りと解くその心は、勝った（買った）勝った（買った）と負けに行く。

師団司令部の兵事部(部長少将)の下に、「伝令部」は優秀で暗号解読をしていたので戦局の推移を秘密に早く知っていた。

「戦史編纂部」というのがあり部長は現職の九大教授で、下川先生を可愛がってくれ、兵役証明と教員の証明もしてくれて戦後すぐ先生になれたそうだ。

「たかつき平和の会」での戦争体験談で「こんなことは、なかなかみんなには云えん」と云われたのは、同期の多くは「菊部隊」「竜部隊」

の将校として悲惨に散っていった想いがあったのかもしれない。

それにしても私たちは、『今からがいよいよ面白くなるぞ、楽しみで死なれんぞ』とにこやかに満面の笑顔で話していたのに、アツという間に逝ってしまったて無念でしかたがない。

## 映画「いのちの山河」を観て

帆柱 三浦日佐代

映画「いのちの山河」を観てから、もうひと月半が過ぎていきます。思い出されるのは、豪雪と四季折々の美しい風景です。しかし、そこで営まれている生活は厳しさの極みに置かれていました。

その中で「村民の生命を守ること」を最大の課題」とした深沢村長の明確な姿勢が、村民の心を動かし沢内村に生命行政を結実させたのだと思います。「昔は“命あつての物種と

いわれていたが、最近は“物種あつての命”になって、命が粗末に扱われるようになってきた”という村長の言葉が最も印象に残っています。生命尊重とは、与えられた命が完全に燃焼し尽くすまで守ることであり、教育も経済も文化もすべてこれにつながっていることに、改めて想いを馳せています。

しかし、作品としては次の点に物足りなさを感じています。ひとつは、深沢村長の姿勢が、どのようにして形成されたのかが描き込まれていないことです。描かれていれば、貧困と格差の拡大が進行している今日、私たちが時代を見つめる目を開く力になったのでは…、と思います。また、キャストが綺麗過ぎて村民とのギャップに違和感がありました。



## 私の戦争体験

西本町 国武 智博

昭和12年（1987年）鹿児島県生まれ、小学入学前までです。父は寺の屋根、手すりや門柱などの金属装飾の職人でした。母は佐賀県のお寺の生まれである。長崎県佐世保市松山町に移転。母のついで旅館業を父親が始める。旅館には軍人が逗留、将校さんたちです。家の近くに楠の大きな公園があった。そこに兵隊さんは逗留していた。兵隊さんは佐世保造船所に動員されました。いま思えば佐世保造船所の防衛のため駐屯していたのではないかと思う。食料不足で兵隊さんに出す食事は貧しかった。母が佐賀の実家に行つて食料を持ち帰り、兵隊さんに出していた。

昭和20年（1945年）8月9日、長崎方面の空に大きな入道雲の

様な雲を見ました。佐世保の街にも灰が降りました。触つてはいけんと言われました。新型爆弾が長崎に落ちて大変な被害が出たとの話が伝わりました。父から「生きている人を探しに行くが来るか」と言われました。小学校低学年は夏休みでしたので一緒に長崎に行きました。6年生の兄は学校に行き、長崎には行きませんでした。

馬車に乗ったり歩いたりして長崎に行きました。長崎には何回か来たことがあったが、焼け野原で知っている建物も人もみんな無くなつていてビックリしました。

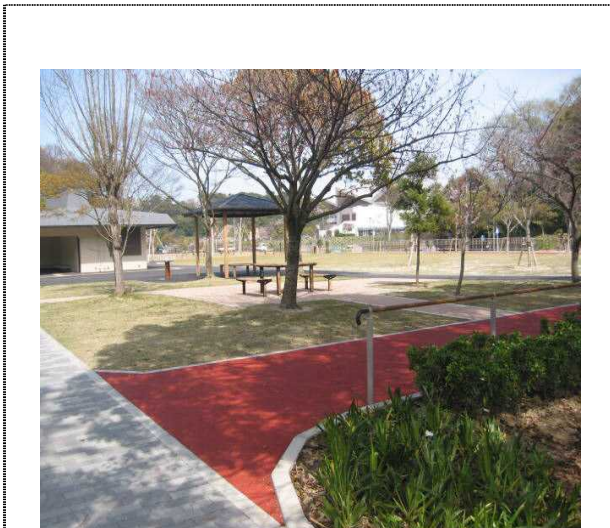
黒焦げの人、腕のない人など沢山の死体を見ました。

戦争をしてはいけないと心底思っています。

## わが街ウオッチング

### 旧八幡市八王寺火葬場

八王寺火葬場は、現北九州市中央園内・福祉公園（八幡東区高見5丁目4番）になっている。（昭和49年度中央公園・計画平面図より）



昭和20年8月8日午前10時、

B 29約一二〇機（米軍資料「二

二一機）が来襲、焼夷弾攻撃で、八

幡市の大半を一挙に焼失、約二千五百人が死傷、一万四千戸が焼け、五万二千五百六十二人が焼け出された。小伊籾山付近一帯も焼野原となり、この防空壕に避難した人々は、火煙に包まれ全員窒息死した。その数三百人といわれている。

八幡空襲の遺体は小伊籾山の防空壕で亡くなった人も、焼け残った地域の国民義勇隊などが遺体処理、学校や広場に集められた遺体を荒縄で縛って、トラックに積みこみ八王子の市営火葬場に運んだ。

火葬場で処理しきれず、すぐ近くの力ボチャ畑（現市立総合体育館の駐車場）に何段にも積んで、集団の野天火葬。十日間ほど続いた。遺骨を急こしらえの竹筒に入れ、火葬を完了。八王寺火葬場は、死因を「爆死」と記した火葬証明書を発行した。残った骨などは放置された。

アクセス



八幡中央町方面から県道・大蔵到津線を小倉方面に行き、七条の交叉点を左折し、七条橋を渡って二つ目の信号を右折すると谷口霊園（慰霊塔）に着く。霊園を高見5丁目に向かつて抜け、徒歩10分で福祉公園に着く。（七条バス停から徒歩20分）

資料

昭和49年度中央公園・計画平面図、縮尺1:500（北九州市建

## 9条の会交流報告

3月13日戸畑生涯学習センター

いで市内9条の会交流会がひらかれ、11の会18人が参加しました。冒頭憲法ネット座長荒牧啓一弁護士から憲法をめぐる情勢報告がありました。憲法九条の形骸化をねらって集団的自衛権の政府解釈を変更できるように、内閣法制局長官を国会の政府答弁要員から除外する国会改革の動き、衆議院比例定数80議席削減する動きにも反対運動を直ちに起こすことが大切と話されました。

参加した9条の会から画一的でないそれぞれの会の特色ある活動が紹介されました。キリスト教者九条の会は神父の平和講演などキリスト者らしい活動と立派な会報を発行しています。お隣の折尾九条の会は週二回の街頭宣伝(2箇所)代4日曜日は場所を変えて1000枚のビラを全戸配布するなど精力的に活動し

ています。八幡東九条の会は学習会、DVD上映会、街頭宣伝、記念行事などの継続的活動を報告しました。

(事務局 安達)



カンパ56,900円

本当にありがとうございま

た

八幡東九条の会は発足して四周年を迎えようとしています。一周年

記念には高遠菜穂子さんをお迎えしたの講演会、国会請願署名の国会提出、定期的なニュースの刊行、平和のうたごえ喫茶などいろいろ催し勉強会などすべて皆様のカンパをもとにここまで歩んでくることができました。四周年にあたって今後の活動のために、会としては2度目となるカンパをお願いしました。この厳しい経済情勢の中どのくらいの方が応じてくださるのかと危惧しながら振込用紙を20号ニュー

スに同封しました。ところがお便りを出してから思いがけないほど早くあの緑色の振り替え受払い通知書が届きました。郵便物の中に緑色の封書を見つけたとき、この感動を事務局の誰よりも先に味わう有難さと申し訳なさを嘔みしめながら封を切りました。それからしばらくの間、毎日のように届けられたカンパに事務局一同力をいただいた思いです。

昨年夏、自民党が選挙に大敗して民主党中心の政権に変わりました。沖縄の基地、日米安保条約のありかたについて甘いと言われても政権交代をチャンスに一步でも見直して動いてくれることを、祈る思いで願っていた私は今、砂をかむ思いでいっぱいになっています。

国民投票法の施行も間近にせまりました。私たちはみなさまの平和への熱い思いを感じながら、地道に運動を広げていく努力を重ねてゆくことしかないと改めて励まされて

います。  
(事務局長 石井方子)

## 事務局便り

### カンパのお礼

カンパありがとうございました  
樋口コスエ、溝口史子、河村智重子、北村昌子、安倍千春、笠原恵美子、

松井岩美・玲子、鬼塚賀津子、滑田三郎、藤本千咲子、吉田英子、山下洋子、井上勇、園田ツルエ、宮浦美好、藤村温實、末次美智、三浦哲雄・日佐代、堂本享子、下川ひろ子、吉田文弘、堤栄子、石井方子、上田秀子、安達恵美子、中尾祐子  
(順不同・敬称省略)

### 《お知らせ》

#### 訃報

井上ひさし氏(九条の会呼びかけ人)

ペンクラブ会長を2期4年つとめ、2008年「九条の会を心ゆくまでやりたい」と退任されたという4月9日死去。ご冥福をお祈りします。

### 北九州憲法集会

#### みんなおいでよ憲法の学校へ

・日時 4月29日13時  
・会場

小倉北区室町リバーウォーク

北九州芸術劇場中劇場

・参加協力費 500円

・主催 北九州憲法集会実行委

#### 員会



### ニュース編集担当者が替わりま

#### した。

これまで主にレイアウトを担当されていた大橋美登里さんのご都合

により、今号から編集担当が細野明さんに替わりました。

大橋さん長い間ご苦勞様でした。細野さんこれからよろしくお願いします。



#### 編集後記

四月九日、九条の会よびかけ人のお一人で作家の井上ひさしさんが亡くなられた。2005年「平和のための戦争展」に来北され講演された。

満席の会場で帰りの飛行機の間も気にせず長時間はなされ、事務局を慌てさせたと聞いた。劇作家としても著名で、もうずいぶん前だが「しみじみ日本乃木大将」(主演小沢昭一)を観た。喜劇仕立ての作品の中で軍国主義を鋭く風刺していた。

政界では参院選を前に自主憲法  
制定を悲願とする党「たちあがれ日  
本」が誕生した。高齢者の党と揶揄  
されながらその急先鋒にたつ平沼代  
表は「いずれ同じ思いの若い人たち  
が集まる」と自信をのぞかせている。  
小さく産んで大きく育てると言う言  
葉もある。油断はできない。今年は  
満開の桜がことのほか美しかったよ  
うに思う。しかし美しい桜の余韻に  
ばかり浸ってはいられない。国民投  
票法施行の年、参議院選の年であ  
る。